

「日本歯科評論」1993年2月号（第604号）別刷

## レプリカ義歯と治療義歯

岡 崎 卓 司

大阪府池田市／開業





## レプリカ義歯と治療義歯

岡崎 卓司

大阪府池田市／開業

前号では旧義歯床をトレーとして印象採得を行う手順を述べたが、義歯新調に関する主訴の多くは「噛めない、合わない、痛い」である。そのため、即座に修正や改造を行って一応噛める義歯とする。しかし、旧義歯の中には10年、20年と使用した金属床等があり、到底改造の望めない症例に遭遇することがある。このような義歯ではトレーとして使用することは不可能であるが、チェアサイドで簡単に、全く同型のレプリカ義歯が技工士諸氏の手を煩わさずに作れるのである。私の診療所では、そのほとんどの操作を衛生士か助手にしてもらい、筆者は他の患者さんの治療に励んでいるのである。

レジン硬化後、専用トレーからレプリカ義歯を取り出して研磨し、患者さんに噛んでもらう。「今までのと全然変わりまへんわ」。

ここから治療義歯として当分使えるよう改造を行う。

まず一番に、確実な咬合位を確保するために床のリライニングを行う。その第一歩が、本症例ではまず床の辺縁部の延長である。延長程度の確認

にはボーダーチェッカー（亀水）を使用すると容易にその範囲が判明するので、その程度にベリレジン（亀水）を盛りつけて口腔内で硬化させる。安定性が高まったことを患者さんは確認してくれるものである。

続いて粘膜面のリライニングを行う。今回は裏装材の表面が硬化後通常のレジンと変わらぬ硬さのあるメタベースM（サンメディカル）を使用してリライニングを行ったが、数日使用させて咬合状態が安定した時点で、咬合挙上を行うか否かを判断して、より良き中心位での咬合を確実に確保することがポイントである。咬合面の修正には床の安定がなくては不可能であると思う。

このレプリカ義歯を患者さんの納得が行くまで思う存分手を加えた後に元の義歯を装着させると、改造のありがたさを痛感してくれるが、残念ながら保険診療では不可能であるので、事前に了解を得ておくことが肝要である。

今回はこの一連の手技を述べることにする。





1 「一生使える」といわれて、正直に20年使った金属床の上下総義歯。欠けた部分はパラフィンで補修するとよい。



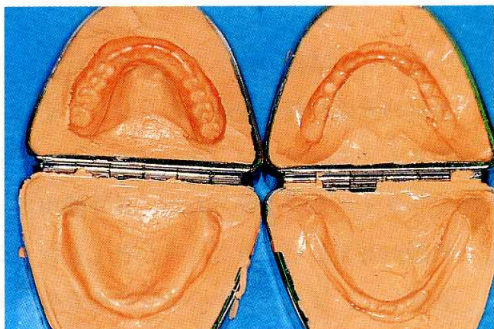
2 レプリカトレー（亀水）



3 アルギン酸印象材を練和して、人工歯側を先に印象材に埋没する。



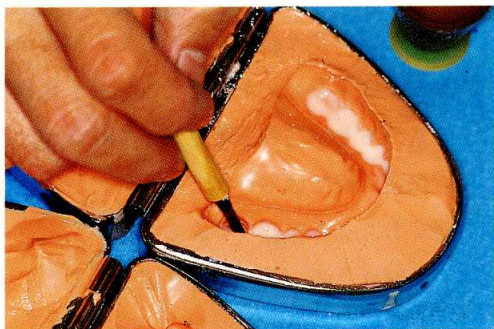
4 3が硬化後、粘膜面側に印象材を練和して、手指にて気泡を作らぬよう填入し、上下フラスコを合わせてネジで締めつけて硬化を待つ。



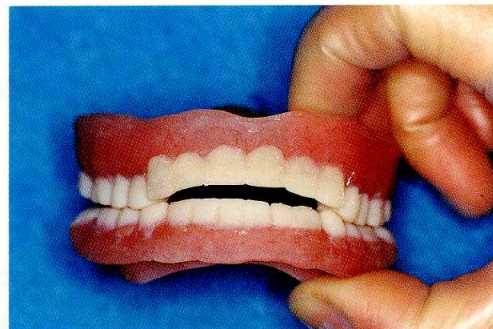
5 印象採得材が硬化し、トレーを開いて旧義歯床を取り除く。



6 レプリカ用レジンセット（亀水）



7 初めに人工歯部を、白色レジンを使用して筆積み法で填入する。このあとピンク色のボディーを流し込み、硬化を待つ。



8 完成したレプリカで、旧義歯床と全く変わらない。





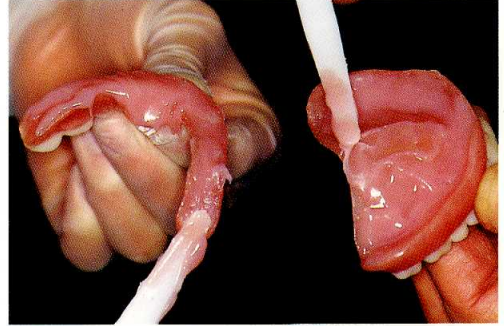
9 ボーダーチェッカーを火で温めて軟化させ、辺縁部に盛る。



10 患者さんの口腔内に義歯を挿入して各種の顎の運動をさせると、筋形成ができる。



11 冷水で十分冷却して、ボーダーチェッカーを取り除く。ボーダーチェッカーの程度に応じて、シリンジを用いて床辺縁部にペリレジンを築盛し、口腔内に挿入して軽く咬合運動を行わせる。



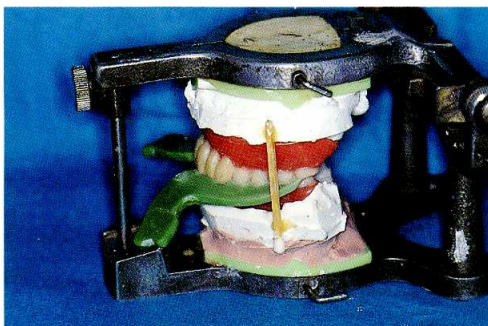
12 メタベースM (サンメディカル) でリライニングを行う。表面は床用レジンとさほど硬さが変わらない。



13 口腔内でメタベースMを硬化させる。



14 バイトアップリテーナ (モルテンメディカル) という、咬合挙上には便利な材料ができています。2mmと3mmの2種類がある。今回は2mmのものを使用している。70度前後の湯に漬けて軟化させ、456部(白歯部)で噛ませて、注水して冷やし、硬化させて口腔外に取り出す。



15 上下床を咬合器に装着して、上下人工歯の形態を修正する。レプリカ義歯が完成し、「噛める楽しみが帰ってきた」と大喜びである(タイトル部の写真)。